

残暑お見舞い申し上げます。

昨年、上梓した「評伝孫基禎」の韓国版が、ベルリン五輪のマラソンで優勝した日を記念して

8月9日に出版されました。

ところが8月15日の光復節の演説に孫さんの名前が出てきたのです。これは冷え切った日韓関係を打開するために、スポーツ・文化交流を強めたいと言う、文在寅大統領の方針によるものだと思います。、文大統領は、まさか、拙著を読んではいないと思いますが、演説担当秘書官が読み、この問題を提起したと韓国のメディアは報じています。

日本の政治家（安倍・森）に聞かせたい話です。

又、拙著に関する話題がもう一つあります。

ボクシングの世界チャンピオンを9度防衛した徳山昌守（洪昌守）という、

在日の方が居ました。彼のおやじは民族意識の高い人で、息子を朝鮮学校へ

通わせ、自身の空手道場で、空手を教え、その後、プロボクシングに進ませ

ました。その父親から「評伝孫基禎」が、私の自宅に送られてきまして「サイン」

をしてくれと言うものでした。

私は、徳山君が最初から、「俺は朝鮮人だ！」と公言して現れましたことにびっくり

していました。ご存知の通り、日本では「在日」をカムアウトすると、本当に生きず

らいのです。彼は何時も「One Korea」と刺繍されたトランクスト、シューズを履いて、

リングに現れました。その時点で彼を尊敬していましたが、まさか彼の親から、「サイン」

を求められるとは思いませんでした。

先日 20 日に、彼の父親と食事をしました。何と昌守君が、大阪から蒲田の自宅に帰って  
いて、食事を共にすることになりました。

お父さんは徳山四郎（洪炳允）と言います。最初は北朝鮮籍でしたが、現在では  
「韓国籍」になっています。日本の中で、民族の誇りを持って、本名で戦ったスポーツ  
選手は稀有にして知りません。その彼を育てた、お父さんからサインを求められたのです。  
勿論、ハングル版も、サイン入りでお渡ししました。

最初はこんなことになるとは思ってもみませんでした。思わぬ方向に進んでいます。

寺島 拝